

● 請めます
● 求めます
● 広報とこざわ
● テレビ情報館
● 不用品ガイド
● リサイクルふれあい館
● ご覧ください
● 所沢リポート
● シティケーブルネット
● 広報とこざわ
● テレビ情報館
● 2時(2)午後1時55分から放送
● 12月19日(木)~12月20日(金)
● 12月20日(金)~12月21日(土)
● 12月21日(土)~12月22日(日)
● 40分(2)午後10時55分から放送
● 館(☎ 944-0000)
● 申込み・問い合わせ
● 受付方法
● 休館日
● 休館日
● 申込み・問い合わせ
● リサイクルふれあい館
● 不用品ガイド
● リサイクルふれあい館
● テーマ“風”
● 充実した人生を
● 林木田雅雄
● 6歳の私は
● 北畠国山岸直子
● 風に寄せて
● 上新井・池田礼子
● 風の四季
● 久米・柳橋コト
● 朝の散歩
● 山口・長瀬弘子
● 風といふ
● 本郷・岡田亨子
● すつといふのこど
● 風といふ
● 北畠・大野喜久子



▲初日はあいにくの雨模様でしたが、2日間で44人が訪れていた「所沢市民フェスティバル」。
10月26日(土)・27日(日)/所沢航空記念公園



▲ごみの減量化等のため、古本の即売や洋傘修理等が行われた「リサイクルふれあい館まつり」。
11月10日(日)/リサイクルふれあい館



■皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者は事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者は記念品を贈呈▶次回のテーマは「雪」▶ほとんどの人が経験ある雪合戦▶楽しいけれど、手は凍りついでしごれるんですね▶人ごみのど真ん中、雪に足をとられるステッテン!思わず赤面なんて体験はあるませんか▶皆さんの雪に対する思い出や、体験談をお寄せください▶締め切りは12月10日(火)必着▶住所、氏名、年齢、電話番号を明記▶送り先:〒359-8501・並木1-1-1 所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係



▲牛沼小学校の児童が琴の演奏に挑戦!芸術活動等を通じ自分探しをする「一人一芸チャレンジ教室」。
11月9日(土)/牛沼小学校



▲大地震でも安心。強固できれいな堤体は人々が集う心の懸け橋となりそうです。山口貯水池堤体完成。
11月14日(木)/山口貯水池(狭山湖)



有楽町 りえ ㉙ 三上里恵女句碑

有楽町の薬王寺境内には、女流俳人三上里恵(1753~1837年)の句碑があります。天保4年(1833年)里恵が81歳のときに建てられたもので、県内でも3番目に古い句碑です。碑には「むさし野にらちなく老いし柳かな」の句が刻まれています。「らちなく(埒無く)」はまらないといった意味で、「老いし柳」は里恵自身のことを指しているのでしょうか。句自体は里恵が70歳のときに詠んだもので、晩年、最も好んだ句だったといいます。

三上里恵の出生については、中藤村(現武藏村山市)説と所沢説の2通りあり、定かではありません。所沢の豪商、三上半次郎に嫁ぎ、夫とともに江戸の雪中庵三世大島夢太郎に俳諧を学びました。夫亡き後、その作品が江戸の著名な俳人に評価されるようになりました。

里恵は号を「野遊亭」といいました。これは、文明元年(1469~87年)に道興准后が所沢を訪れた折に「野遊びのさかなに山のいもそてほりもとめたる野老蒼かな」と詠んだ歌にちなんだもので、夫と同じ号を称していました。所沢周辺の地誌として知られた『武藏野話』の著者、斎藤鶴鑑とも交流があり、鶴鑑が所沢に住むきっかけになりました。

この三上里恵を最初に世に紹介したのは、大正から昭和にかけて所沢の歴史研究に情熱を傾けた深井夢と妻の八重でした。深井夢は、寺町の商家出身で銀行の監査役や町会議員等を務めるかたわら、郷土の歴史を研究し、大正時代に仲間数名と郷土会を起こした人物です。深井夢らは、謄写版刷りによる資料集の発行や拓本による石造物調査等、今日の市史編さん事業に匹敵する活動を行っています。また、その成果を郷土史雑誌に発表し、所沢郷土誌(未刊)としてもまとめました。三上里恵の研究は、昭和13年『埼玉史談』に発表されました。

薬王寺境内には、三上里恵の句碑とともに、同じ俳諧の仲間であった原衣月の句碑も並んで立っています。これらの句碑は、深井夢のような郷土史研究を深めた人がいたからこそ、大切にされてきたともいえます。



菊作りは、毎年1年生

今回の野老っ子は、10月下旬から11月上旬に開催された「所沢市連合菊花展で埼玉県知事賞」「埼玉県菊花展覧会で農林水産大臣賞」を受賞された石井惣平さんを紹介します。

石井さんは、現在お住まいの家で生まれ育った生っ子の野老っ子。本業である農業を営むかたわら、菊作りを楽しんでいます。

菊作りはじめたのは17年ほど前。最初は独学で学んだ方法で育てていましたが、その後、地元の富岡菊愛好会に入会し、先輩の指導を受けながら研究を進めてきました。「がっちりした根を作ることで良い菊が育つんです」と語る石井さんのご自宅の庭先には、数々の素晴らしい菊が並んでいました。

立てるこの難しさが分かります。

また、富岡菊愛好会では、毎年、地元の富岡小学校に自作の菊の苗を寄付しています。それを児童が育てることで、菊を通じた地域の交流が図られています。

最後に今後の目標を尋ねると「私にとって菊作りは何よりの生きがい。皆さんにも良い菊を作ってもらえるよう、協力していきたいと思います」と笑顔で話してくれた様子から、菊を愛し、人を大切にする優しい石井さんがうかがえました。

はつらつ ところ 野老っ子



石井惣平さん
(下富在住)

たな計画を練り始めます。「菊は1年もの。経験が長くても、毎回1から始めなければならないんです。だから毎年1年生なんですよ。」

その年の気候や水・堆肥のやり方等で上手に育てられるかが微妙に変わる菊作り。展覧会に出展できる菊に立てるこの難しさが分かります。

菊作りはじめたのは17年ほど前。最初は独学で学んだ方法で育てていましたが、その後、地元の富岡菊愛好会に入会し、先輩の指導を受けながら研究を進めてきました。「がっちりした根を作ることで良い菊が育つんです」と語る石井さんのご自宅の庭先には、数々の素晴らしい菊が並んでいました。

立てるこの難しさが分かります。

また、富岡菊愛好会では、毎年、地元の富岡小学校に自作の菊の苗を寄付しています。それを児童が育てることで、菊を通じた地域の交流が図られています。

最後に今後の目標を尋ねると「私にとって菊作りは何よりの生きがい。皆さんにも良い菊を作ってもらえるよう、協力していきたいと思います」と笑顔で話してくれた様子から、菊を愛し、人を大切にする優しい石井さんがうかがえました。